

Ⅱ. 民医連QI指標V.3の意義

民医連QI指標V.3は、2010年から蓄積された取り組みの成果と教訓のうえに、今日の情勢やこれからの中小病院の医療機能や役割を踏まえた新規指標の設定と指標の体系化を行い、めざす質、求められる質をより明確に表現することを目指して設定したもので、2年目となります。その特徴は、①民医連病院を一般急性期病院Ⅰ（DPC病院）、一般急性期病院Ⅱ（DPC病院以外）、慢性期病院（回復期・療養病床だけの病院）という三つの機能別類型にわけた縦軸の指標を設定したこと、②領域を再編成し5疾患5事業や地域医療策定ガイドラインに関わる個別疾患と診療機能の指標、ヘルスプロモーションの指標なども拡充したこと、そして③縦軸・横軸の指標の設定に基づいて必須指標と共通指標、独自指標、任意指標に再編・設定したことです。DPCデータを活用した26指標46項目（以下DPC指標）と統合し全体で61指標82項目ありますが、それぞれの機能・役割に照らして、個々の指標のみでなく、関連する指標を組み合わせて分析・評価することで、より課題を明らかにして改善を進められるものとなることを期待しています。指標の構成は、病院全体、個別疾患、診療機能、地域連携・在宅、人権尊重、患者満足、職員満足です。各領域の指標の特徴を簡単に紹介します。

1. 病院全体～医療機能に関わらず求められる質の共通指標

すべての病院に求められる質として、組織医療としての標準的医療、栄養管理や褥瘡の予防、医療安全・感染管理があります。そして、チーム医療で実践するヘルスプロモーションの指標は患者の生活背景をとらえ、退院後の療養における健康のコントロールができるようにするプロセスと結果の測定です。

褥瘡は早期発見の観点（d1）と重症化予防（d2以上）を区別しています。採用薬品については、ジェネリック薬品の採用割合と、特に流通薬品数が多く、選択基準がないと採用数が多くなりやすい降圧剤、糖尿病用剤、抗アレルギー剤、ベンゾジアゼピン剤について、採用薬品数の測定（年1回）します。追加したものとしては、薬剤の安全管理、高齢者の内服定期薬7剤以上の割合、入院早期栄養アセスメント、栄養改善割合、病棟における注射薬関連事故・事象、輸液ポンプの設定誤りと不具合による事故事象、尿道留置カテーテル使用率、尿路感染新規感染発生率です。栄養アセスメントは類型による違いを考慮しています。感染管理の指標はDPC指標と合わせて9指標となり最も充実した分野となっています。

ヘルスプロモーションの指標としては、職業歴の初診時記載割合、退院後7日以内の予定外緊急再入院の割合、退院後2週間以内のサマリー記載割合を位置付けています。職業歴記載率は、問診票に記載欄を設けたりシステムや体制ではなく、収集した情報を使っている状態を目指します。再入院率は、再入院までの期間を7日以内とし、予期されたか否か（説明の有無）に限らず、減らすべき対象を予定外の緊急入院としました。ヘルスプロモーション、退院支援、継続的ケアのアウトカムと捉えることができます。

2. 個別疾患・診療機能に関する指標

いわゆる5疾患5事業に対応していますが、個別疾患はA脳梗塞、B心筋梗塞、C糖尿病、Dがん、E精神科領域の5事業と、民医連病院で対象の多いF呼吸器疾患、G心不全、H消化器の指標、それと5事業のうち救急、周産期、小児の3事業に関するものです。

市中肺炎の死亡比を中止し、DPC指標との重複を整理し16指標（33～48）となっています。糖尿病と精神疾患（認知機能スクリーニング）を除きDPC病院のみの指標です。糖尿病患者の血糖コントロールは血糖降下剤・インスリンを90日以上処方された患者が対象に変更し、コントロールすべき対象を特定しています。

3. その他の指標の意義づけ

意義をとらえ直したものとして人権尊重の指標があります。身体抑制は過剰な抑制を減らすための努力として、解除・軽減のためのカンファレンス実施頻度（検討頻度）を追加し、医療安全の指標から人権尊重の指標に変更しました。カルテ開示は、申請によるもの、配布型、閲覧型と分けて積極的開示を区別できるようにしました。

また、今回任意指標ですが、職員満足度を入れています。「患者の目的達成」「推奨度」「やりがい」の3点についての職員満足を測ることとしました。患者満足と職員満足が一致して高まることが期待されます。

3. おわりに

2017年は民医連QI推進士セミナーを開催し、37県連から66事業所3県連事務局から112名が参加しました。質の指標は測定し、測定結果から改善課題を見出し、改善の手立てを立て実施し、変化をモニタリングして改善策の再評価、見直しをしながら改善を進め、結果患者に提供する医療の質が良くなることを目指すものです。指標はたくさんありますが、自事業所にとっての課題は何か、役割・機能に応じて目標を設定し取り組みましょう。